

空見るは忘我にあらず寒椿

藤田湘子

青天に変幻自在に流れる雲の形、瞬く星々の動きを辿るのは面白い。また、誰気兼ねせず大地に寝転がつて空を見上げながら成長すれば、気宇壮大にもなろう。

湘子先生には、上昇嗜好や一流嗜好があつたようだ。若い時代から水原秋櫻子の元で俳句を学んだ影響にもよるのだろうが、学生時代からの氣質がそのまま糸を引いていたのだろう。

「忘我」の心で空を感得できるなら幸い。しかし、そんな時間は数分も続かない。得難いものほど憧れる。その無限とも思える空間に開き始めた真っ赤な一輪の「寒椿」を置いてみる。